

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-276874

(P2004-276874A)

(43) 公開日 平成16年10月7日(2004.10.7)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 2 B 9/14

F I

B 6 2 B 9/14

テーマコード (参考)

3 D O 5 1

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2003-74723 (P2003-74723)
 (22) 出願日 平成15年3月19日 (2003.3.19)

(71) 出願人 390006231
 アップリカ▲葛▼西株式会社
 大阪府大阪市中央区島之内1丁目13-13
 (74) 代理人 100091409
 弁理士 伊藤 英彦
 (74) 代理人 100096792
 弁理士 森下 八郎
 (74) 代理人 100091395
 弁理士 吉田 博由
 (72) 発明者 ▲葛▼西 健造
 大阪市中央区東心斎橋1丁目14番9号
 (72) 発明者 大西 伊知朗
 大阪市中央区島之内1丁目13番13号
 アップリカ▲葛▼西株式会社内
 最終頁に続く

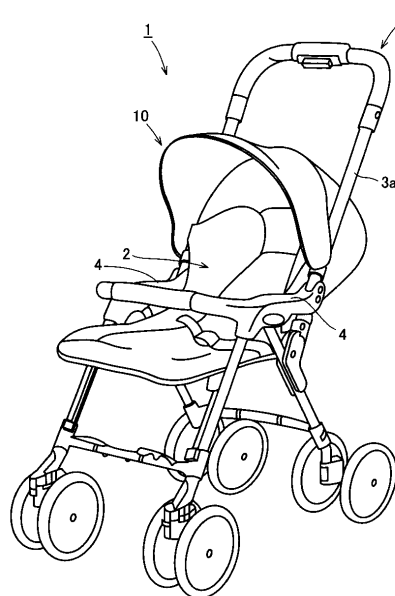
(54) 【発明の名称】 幌を備えた乳母車

(57) 【要約】

【課題】 椅子状態およびベッド状態の両状態において、子供を日差しから有効に保護することのできる幌を備えた乳母車を提供する。

【解決手段】 乳母車 1 は、椅子状態とベッド状態とに切換え可能な座席 2 を有する座席本体と、座席 2 の上部を覆うような位置で乳母車本体に取り付けられた幌 10 とを備える。幌 10 は、椅子状態の座席 2 を覆う上方位置と、ベッド状態の座席 2 を覆う下方位置との間で高さ調節可能に設けられている。

【選択図】 図 2



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

椅子状形態とベッド状形態とに切換え可能な座席を有する乳母車本体と、座席の上部を覆うような位置で前記乳母車本体に取り付けられた幌とを備え、前記幌は、椅子状形態の座席を覆う上方位置と、ベッド状形態の座席を覆う下方位置との間で高さ調節可能に設けられている、幌を備えた乳母車。

【請求項 2】

前記幌は、前記上方位置および下方位置で、前記乳母車本体に着脱可能に取り付けられている、請求項 1 に記載の幌を備えた乳母車。

【発明の詳細な説明】

10

【0001】**【発明の属する技術分野】**

この発明は、椅子状形態とベッド状形態とに切換え可能な座席と、幌とを備えた乳母車に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

特開昭 57 - 95254 号公報は、椅子状形態とベッド状形態とに切換え可能な座席を有する乳母車を開示している。特開 2002 - 187554 号公報は、座席の上部を覆う幌を備えた乳母車を開示している。

【0003】

20

幌は、特に、座席に着座した子供を強い日差しから保護する機能を有する。

【0004】**【特許文献 1】**

特開昭 57 - 95254 号公報

【0005】**【特許文献 2】**

特開 2002 - 187554 号公報

【0006】**【発明が解決しようとする課題】**

従来の乳母車においては、幌は、椅子状態の座席に適合する高さの位置で乳母車本体に取り付けられている。椅子状形態とベッド状形態とに切換え可能な座席を有する乳母車においても、幌は、椅子状形態の座席に適合する高さ位置で取り付けられる。そのため、座席をベッド状形態にしたとき、幌は、ベッド状の座席からかなり上方に位置することになり、子供を日差しから有効に保護できないような場合が生じ得る。

30

【0007】

特に、軽量化、コンパクト化を狙った乳母車の場合、幌の大きさも小さくする傾向にあるので、乳母車をベッド状態にしたとき、子供を日差しから護るという幌本来の機能も果し得なくなるおそれがある。

【0008】

この発明の目的は、椅子状形態およびベッド状形態の両状態において、子供を日差しから有効に保護することのできる幌を備えた乳母車を提供することである。

40

【0009】**【課題を解決するための手段】**

この発明に従った乳母車は、椅子状形態とベッド状形態とに切換え可能な座席を有する乳母車本体と、座席の上部を覆うような位置で乳母車本体に取り付けられた幌とを備える。幌は、椅子状形態の座席を覆う上方位置と、ベッド状形態の座席を覆う下方位置との間で高さ調節可能に設けられている。

【0010】

一つの実施形態では、幌は、上方位置および下方位置で、乳母車本体に着脱可能に取り付けられている。

50

【 0 0 1 1 】

上記の本発明によれば、幌は、椅子状形態およびベッド状形態の両状態において、それぞれ最適な高さ位置にあるので、子供を日差しから有効に保護することができる。

【 0 0 1 2 】

【 発明の実施の形態 】

図 1 ~ 図 5 を参照して、この発明の一実施形態を説明する。

【 0 0 1 3 】

図 1 および図 2 を比較すれば明らかなように、乳母車 1 は、椅子状形態（図 1）およびベッド状形態（図 2）に切換え可能な座席 2 と、座席 2 の上部を覆う幌 10 とを備える。乳母車 1 は、1 対の手摺部材 4 の後方端部分から上方に延びている逆 U 字形状の押棒 3 を備えている。幌 10 は、押棒 10 の 1 対の縦棒 3 a に着脱可能に取り付けられる。

【 0 0 1 4 】

図 3 は、幌 10 を示す側面図である。幌 10 は、取り付けベース 14 から上方に延びている幌骨 11、12 と、幌骨上に被せられる幌布 13 とを有する。図 3 では、幌布 13 を想像線で示している。

【 0 0 1 5 】

幌 10 は、図 1 に示す上方位置と、図 2 に示す下方位置との間で高さ調節可能に設けられている。すなわち、座席 2 を図 1 に示す椅子状形態にしたとき、幌 10 の高さを椅子状形態に対して最適な上方位置にする。座席 2 を図 2 に示すベッド状形態にしたとき、幌 10 の高さをベッド状形態に対して最適な下方位置にする。

【 0 0 1 6 】

上述のような幌 10 の高さ調節を可能にするために、図示した実施形態では、幌 10 は、押棒 3 の 1 対の縦棒 3 a に着脱可能に取り付けられている。図 4 は、幌 10 を押棒 3 に取り付ける前の状態を示し、図 5 は取り付け後の状態を示している。

【 0 0 1 7 】

図 4 に示すように、押棒 3 の 1 対の縦棒 3 a は、前述した幌 10 の上方位置および下方位置に対応する上下の 2 箇所の位置に、凹部 3 b を有する。幌 10 の取り付けベース 14 は、縦棒 3 a の外面上に嵌る外筒部 14 a を有する。外筒部 14 a の内面には、縦棒 3 a の凹部 3 b に係合する凸部 14 b が設けられている。取り付けベース 14 は、例えば樹脂で作られており、外筒部 14 a の直径を多少拡張できる弾力性を有している。

【 0 0 1 8 】

図 4 に示す状態から、幌 10 の取り付けベース 14 を押棒 3 の縦棒 3 a に押し付ければ、図 5 に示すように、幌 10 の取り付けベース 14 の凸部 14 b と縦棒 3 a の凹部 3 b とが係合状態になり、幌 10 の位置を固定できる。

【 0 0 1 9 】

こうして、本発明の一実施形態によれば、幌を、椅子状形態およびベッド状形態の両状態において、それぞれ最適な高さ位置に取り付けることができるので、子供を日差しから有効に保護することができる。

【 0 0 2 0 】

なお、上述の実施形態では、幌 10 を押棒 3 に着脱可能に取り付けていたが、押棒以外の乳母車本体に取り付けることも可能である。

【 0 0 2 1 】

また、他の実施形態として、幌を乳母車本体に対して上下方向にスライド可能に設けるようにしてもよい。この場合であっても、幌は、椅子状形態に最適に適合する上方位置と、ベッド状形態に最適に適合する下方位置とを取り得るようにすることが必要である。

【 0 0 2 2 】

なお、高さ調節可能な幌を備える乳母車は従来から存在しているが、これらの乳母車では、幌は、椅子状形態に適した高さの範囲内で高さ調節可能になっているだけである。椅子状形態とベッド状形態の両状態において最適高さ位置を取り得るような幌を備えた乳母車は、従来、全く提供されていない。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 3 】

好ましくは、幌は、椅子状形態に適した高さおよびベッド状形態に適した高さの両状態において、乳母車の折畳み動作に支障をきたさないように構成する。乳母車が椅子状形態になっているとき、幌は、通常、背もたれ部よりも上方に位置するので、その存在が背もたれ部と座部とを近づける折畳み動作に支障をきたさない。乳母車がベッド状形態になっているときには、幌は、ベッド状形態に適した高さになっている。幌をこの高さに維持したまま乳母車の折畳み動作を行なうと、幌は、背もたれ部と座部とに挟まれて前後方向に縮小する。

【 0 0 2 4 】

以上、図面を参照してこの発明の一実施形態を説明したが、この発明は、図示した実施形態に限定されるものではない。図示した実施形態に対して、この発明と同一の範囲内において、またはこの発明と均等の範囲内において種々の修正や変形を加えることが可能である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】座席が椅子状形態になっている乳母車を示す斜視図である。

【図 2】座席がベッド状形態になっている乳母車を示す斜視図である。

【図 3】幌を示す側面図である。

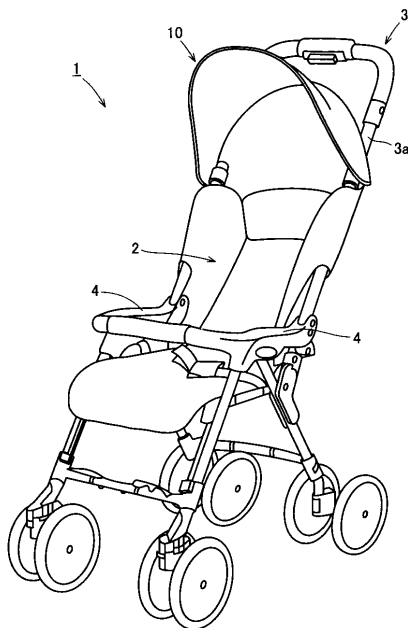
【図 4】幌を押棒に取り付ける前の状態を示す断面図である。

【図 5】幌を押棒に取り付けた状態を示す断面図である。

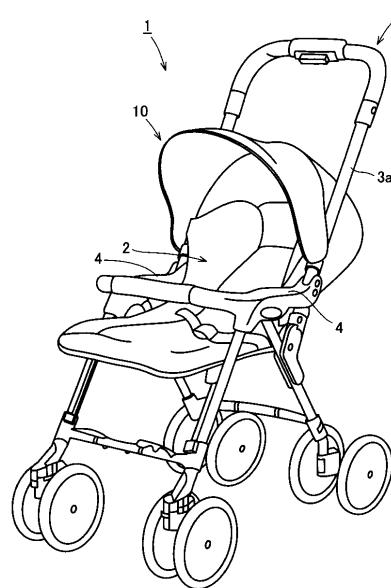
【符号の説明】

1 乳母車、2 座席、3 押棒、3 a 縦棒、3 b 凹部、4 手摺部材、1 0 幌、1 1 幌骨、1 2 幌骨、1 3 幌布、1 4 取り付けベース、1 4 a 外筒部、1 4 b 凸部。

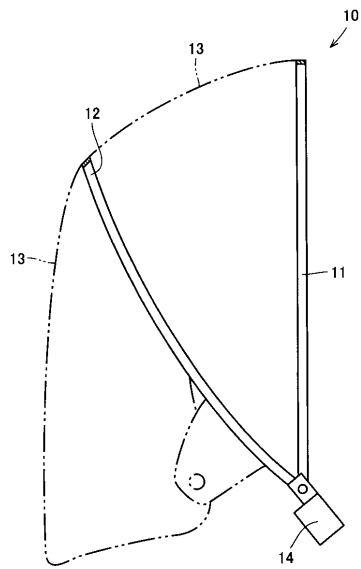
【図 1】



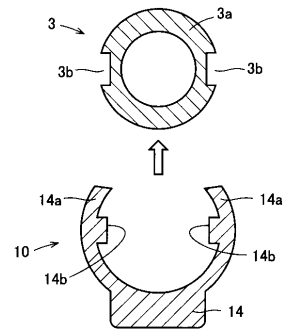
【図 2】



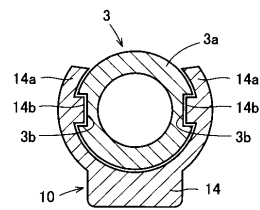
【 図 3 】



【 図 4 】



【 図 5 】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3D051 AA02 AA23 CA13 CC05 CG04 CG06